



ASPIRE 先端国際共同研究推進事業
Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem

世界のトップサークルとつながろう

~ Let's ASPIRE!! ~

第二部

令和5年6月16日



科学技術振興機構

国際部 ASPIREグループ 橋本、豊福

先端国際共同研究推進事業 ASPIRE紹介

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）とは

ASPIRE

先端国際共同研究推進事業

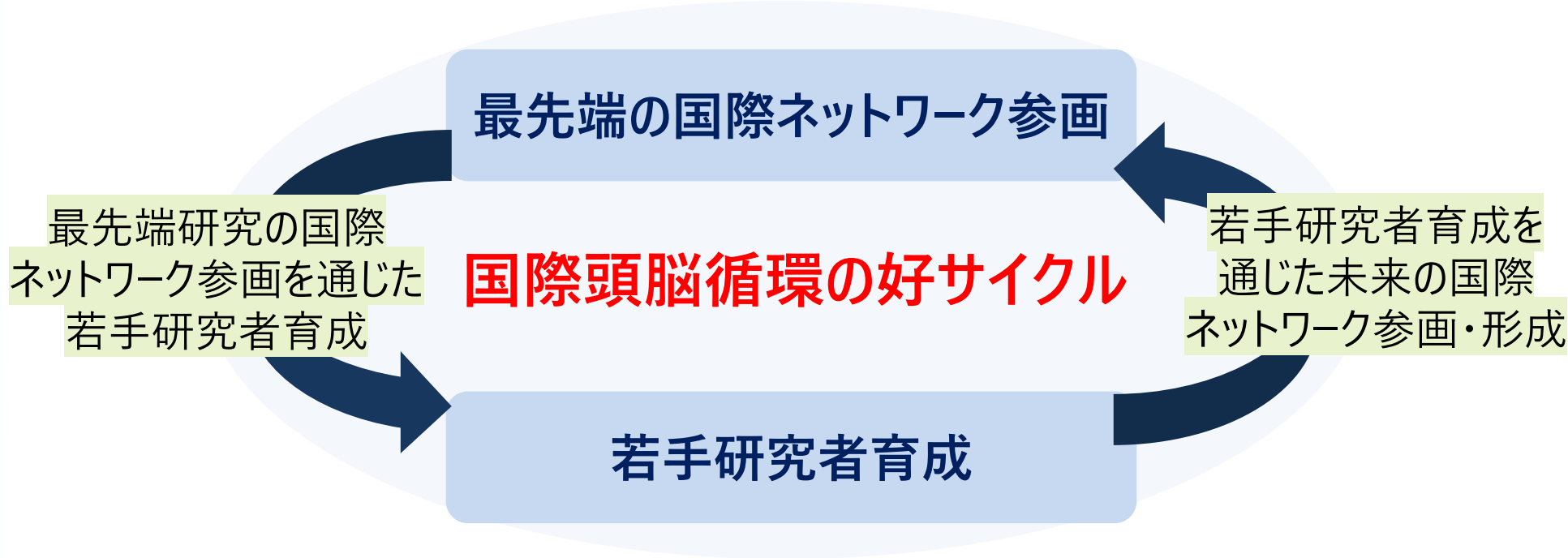
Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem

**トップ研究コミュニティにおける
国際頭脳循環・共同研究の活発化**

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）とは

国際頭脳循環・共同研究の活発化を狙う！！

1. 最先端研究の国際ネットワークへの日本人研究者の参画促進
2. 若手研究者の育成、コネクションの強化を通じた持続可能な国際ネットワークへの参画・連携の土台作り



ASPIRE立ち上げの背景

- ・日本の研究力の低下、最先端研究の国際ネットワークから脱落し始めている
- ・一方、昨今の地政学的変化を受け、科学技術強国において日本との連携を再評価する動き。

全論文数	2008-2010				2018-2020			
	2008 - 2010年 (PY) (平均)				2018 - 2020年 (PY) (平均)			
	国・地域名	論文数	シェア	順位	国・地域名	論文数	シェア	順位
	米国	246,188	22.7	1	中国	407,181	23.4	1
	中国	107,955	10.0	2	米国	293,434	16.8	2
	日本	64,783	6.0	3	ドイツ	69,766	4.0	3
	ドイツ	58,095	5.4	4	インド	69,067	4.0	4
	英国	54,116	5.0	5	日本	67,688	3.9	5
	フランス	42,811	4.0	6	英国	65,464	3.8	6
	イタリア	36,858	3.4	7	韓国	53,310	3.1	7
	インド	35,150	3.2	8	イタリア	52,110	3.0	8
	カナダ	34,913	3.2	9	フランス	45,364	2.6	9
	韓国	31,650	2.9	10	カナダ	43,560	2.5	10

Top10%論文数	2008-2010				2018-2020			
	2008 - 2010年 (PY) (平均)				2018 - 2020年 (PY) (平均)			
	国・地域名	論文数	シェア	順位	国・地域名	論文数	シェア	順位
	米国	36,910	34.1	1	中国	46,352	26.6	1
	中国	9,011	8.3	2	米国	36,680	21.1	2
	英国	7,420	6.9	3	英国	8,772	5.0	3
	ドイツ	6,477	6.0	4	ドイツ	7,246	4.2	4
	フランス	4,568	4.2	5	イタリア	6,073	3.5	5
	日本	4,369	4.0	6	オーストラリア	5,000	3.0	6
	カナダ	4,078	3.8	7	インド	4,926	2.8	7
	イタリア	3,450	3.2	8	...	4,509	2.6	8
	オーストラリア	2,941	2.7	9
	スペイン	2,903	2.7	10	日本	3,780	2.2	12

- ・論文の質の低下
- ・重要な国際会議における日本人招待講演者・等の減少
- ・サイエンス誌における日本人査読者の減少、等

日本の総論文数は増えているが
Top10%論文数は減少

出典：科学技術指標2022 (科学技術・学術政策研究所)

国としての政策・方針

第6期科学技術基本計画

・「**海外の研究資金配分機関等との連携を通じた国際共同研究**や、魅力ある研究拠点の形成、**学生・研究者等の国際交流**、世界水準の待遇や研究環境の実現、大学、研究機関、研究資金配分機関等の国際化を戦略的に進め、**我が国が中核に位置付けられる国際研究ネットワークを構築**し、世界の優秀な人材を引き付ける。」

G7首脳声明

国際頭脳循環の促進に言及

(原文)

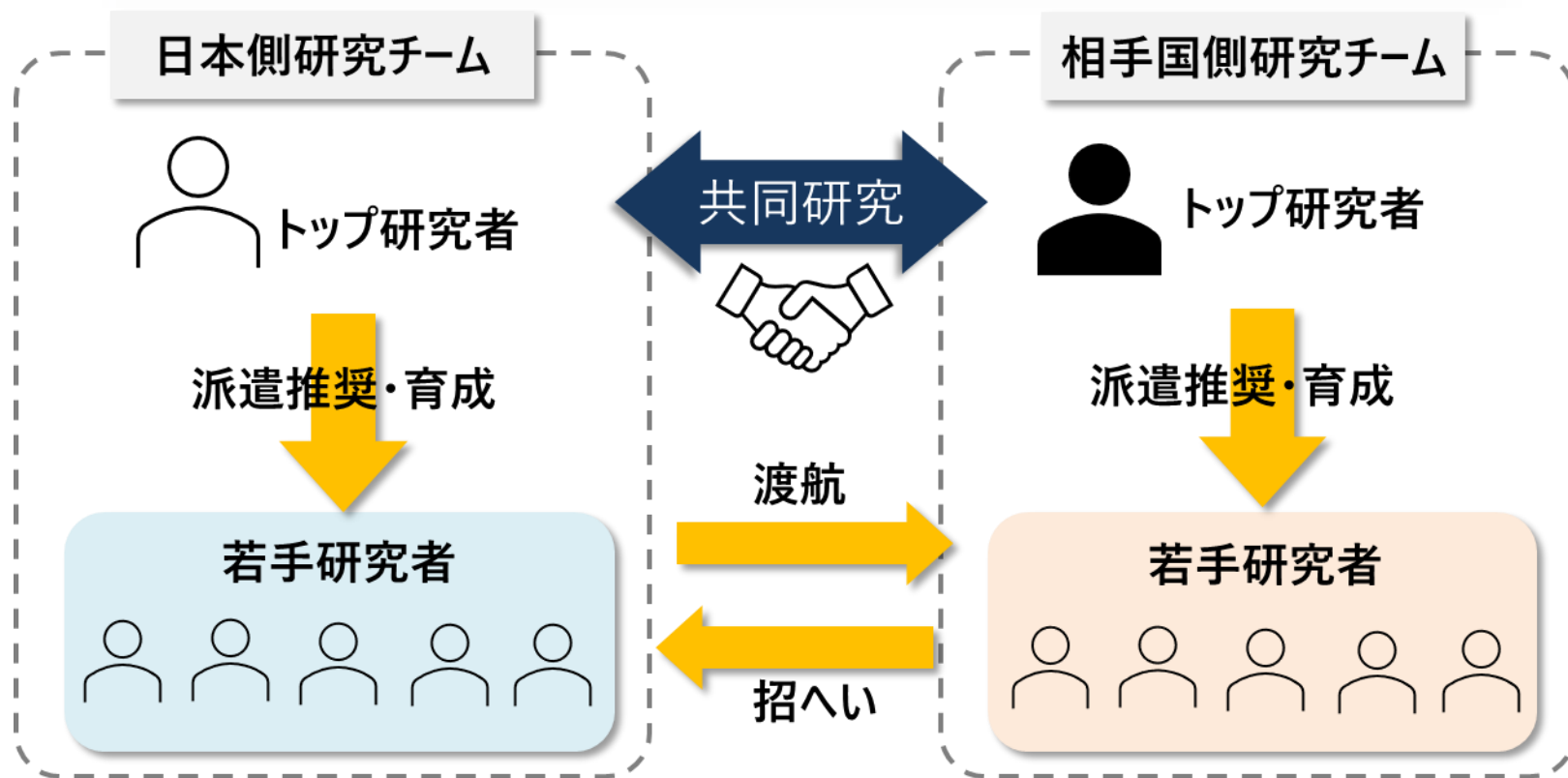
We support the development of advanced technologies, research infrastructures and highly skilled human resource networks that will **drive innovation** to solve global challenges and enable the next stage of economic growth. To this end, **we promote international talent mobility and circulation.**

我々は、グローバルな課題を解決し、次の段階の経済成長を可能にする、**イノベーションを推進**するための先端技術、研究インフラ及び高技能な人材ネットワークの開発を支援する。このため、**国際的な人材の移動及び循環を促進する。**

G7広島首脳コミュニケ（2023年5月20日）より抜粋

ASPIREについて

トップの研究コミュニティにおける 国際頭脳循環・共同研究の活発化



ASPIREについて

Top Down

文部科学省

分野

AI・情報
バイオ
エネルギー
マテリアル

量子
半導体
通信

対象国・地域

米国、EU、イタリア、オーストリア、
オランダ、スウェーデン、スペイン、
チェコ、デンマーク、ドイツ、フィンラン
ド、フランス、ベルギー、ポーランド、
ポルトガル、英国、スイス、
ノルウェー、カナダ、オーストラリア

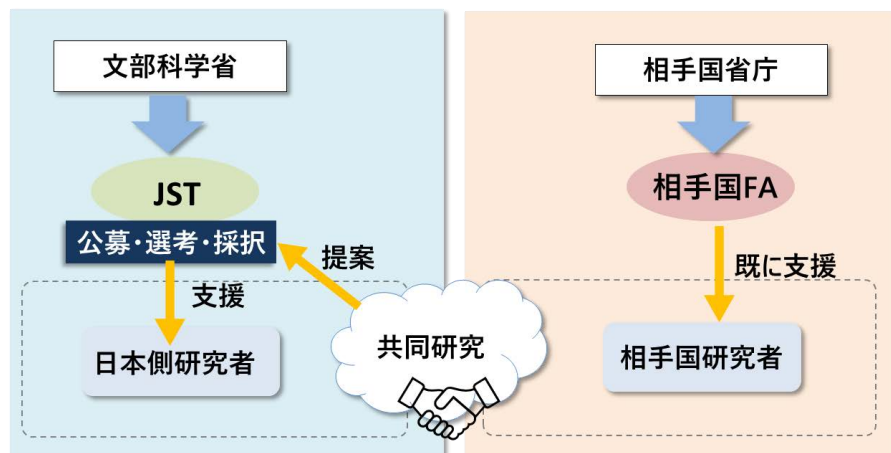


国が定める分野、対象国・地域との国際共同研究を通じた
ネットワーク作り等を支援

大学・国立研究開発法人等

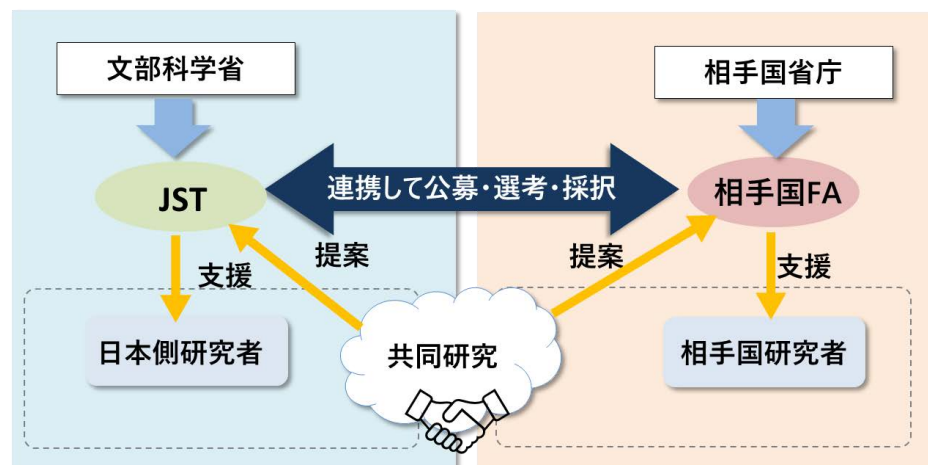
ASPIREについて

アライメント公募








日本側提案者による提案を募集
(相手国側研究者は他のプログラムで既に支援を受けている、又は今後支援を受けることが決まっている必要あり)
⇒採択後JSTは日本側研究者に資金を配分

共同公募



日本側研究者と相手国側研究者による募集を提案
⇒採択後JSTは日本側研究者、相手国FAは相手国側研究者に資金を配分

今後の予定（予定）

FY2023	FY2024	FY2025	FY2026
アライメント公募  6/6 公募開始			
	アライメント公募  共同公募 		
		アライメント公募  共同公募 	

今後3年にわたり公募を実施予定

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

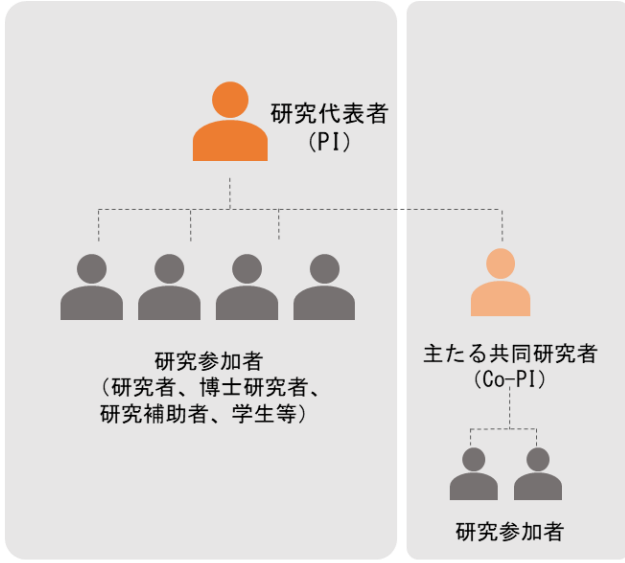
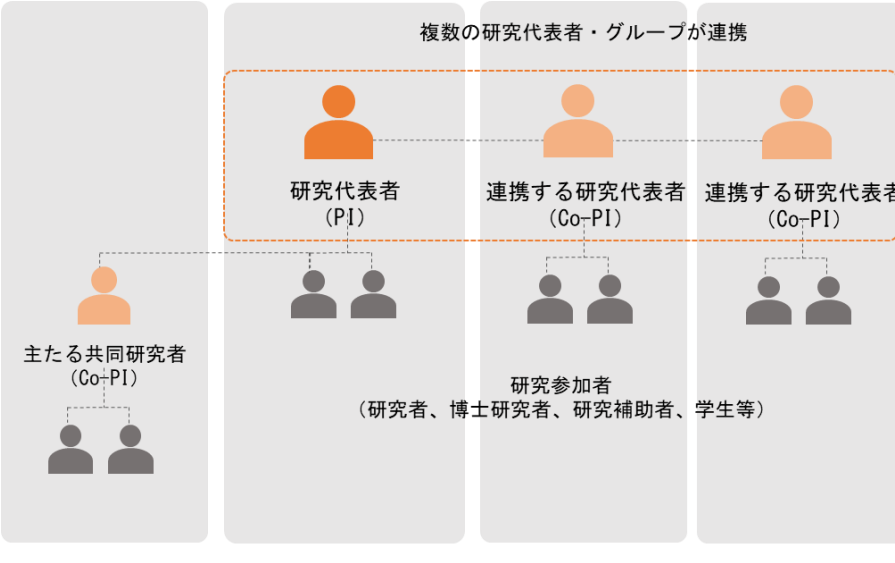
提案募集中

◆公募枠

	Top研究者のためのASPIRE (ASPIRE for Top Scientists)	TopチームのためのASPIRE (ASPIRE for Top Teams)	次世代のためのASPIRE (ASPIRE for Rising Scientists)
対象	国際的にトップ水準の研究を行う研究者	連携して国際的にトップ水準の研究を行う研究チーム	今後国際的な研究実績を積み、将来日本のトップ研究者になることが期待される研究者
研究分野	AI・情報、バイオ、エネルギー、マテリアル、量子、半導体、通信の7分野		
対象国・地域	米国、EU、イタリア、オーストリア、オランダ、スウェーデン、スペイン、チェコ、デンマーク、ドイツ、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、英国、スイス、ノルウェー、カナダ、オーストラリア		
支援規模	最大3.8億円 (直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大5億円)		最大6,900万円(直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大9,000万円)
支援期間	5年間 (2024年2月～2029年3月)		3年間 (2024年2月～2027年3月)

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆トップ向け枠

Top研究者のためのASPIRE	TopチームのためのASPIRE
 <p>研究代表者 (PI)</p> <p>研究参加者 (研究者、博士研究者、研究補助者、学生等)</p> <p>主たる共同研究者 (Co-PI)</p> <p>研究参加者</p> <p>代表研究機関</p> <p>共同研究機関</p>	 <p>複数の研究代表者・グループが連携</p> <p>研究代表者 (PI)</p> <p>連携する研究代表者 (Co-PI)</p> <p>連携する研究代表者 (Co-PI)</p> <p>主たる共同研究者 (Co-PI)</p> <p>研究参加者 (研究者、博士研究者、研究補助者、学生等)</p> <p>共同研究機関</p> <p>代表研究機関</p> <p>共同研究機関</p> <p>共同研究機関</p>
<p>研究代表者が個人として国際的に トップ水準の研究を行う</p>	<p>連携してチームとして国際的に トップ水準の研究を行う</p>

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆特徴的な応募要件

国際ネットワークづくり・頭脳循環促進のために、、、

- ①原則1年程度の相手国側での研究実施
- ②相手国側から有望な若手研究者等を招聘
- ③予算の用途制限

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆ 特徴的な応募要件

①原則1年程度の相手国側での研究実施

日本側研究チームには相手国へ渡航する**若手研究者等の参加を必須**とし、原則1年程度相手国側で研究活動を実施する必要があります。

渡航する若手研究者等は原則、下記（i）、（ii）のいずれかに該当するものとします。

渡航する研究者の人数に制限はありません。

- （i）修士・博士課程（博士前期・後期課程）に在籍する学生であること
- （ii）大学、公的研究機関等で研究活動を行う研究者で学位取得後15年程度以内であること

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆ 特徴的な応募要件

②相手国側から有望な若手研究者等を招聘

提案書の中に、相手国側から有望な若手研究者等を招へいする計画を盛り込む必要があります（基本的には中長期で滞在し、日本での研究や日本の研究者との交流を通じたネットワーク構築等が期待されます）。

※相手国側から招聘する研究者等への渡航費、滞在費、研究費、報酬等を支出することができます。

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆ 特徴的な応募要件

③ 予算の用途制限

直接経費総額の7割以上を最先端な研究開発につながる国際的ネットワークの構築・拡大や、国際頭脳循環を促進し国際的なトップ水準の研究機会を若手研究者等へ提供するなど次世代のトップ研究者になることが期待される若手研究者育成を目的として使用するものとします。

例)

- ・トップ研究者・若手研究者間のコネクション強化を目的としたWS開催
- ・相手国側への若手研究者の渡航費、と渡航後に発生する費用
- ・招へいに係る費用（渡航費、滞在費、報酬など）
- ・渡航や交流の実施にかかるコーディネート業務を行うスタッフの人件費等

※研究推進のみを目的とした雇用や物品費等は本費用には含まれません

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆ よくある問い合わせ

- ・ASPIRE内での重複応募制限について
「次世代のためのASPIRE」に研究代表者として応募し、平行して「TopチームのためのASPIRE」で主たる共同研究者として応募することは可能か
⇒可能、但し研究代表者として複数枠への応募は不可
- ・相手国側FA等の支援内容について
支援規模や支援期間に条件はあるか
⇒特になし、但し応募時に支援をうけている又は支援を受けることが決まっている
必要あり
- ・複数国の研究者との応募について
複数国の機関の研究者と連携して応募することは可能か
⇒対象国・地域の研究者であれば可能、各国でPIを選出頂きそれぞれの所属機関よりLoIを提出頂く必要あり

ASPIRE 2023年度アライメント公募について

◆ 公募スケジュール

- ・研究提案〆切：2023年8月17日（木）正午
- ・書類審査期間：2023年8月下旬～11月上旬
- ・面接審査期間：2023年11月20日（月）、21日（火）、22日（水）、24日（金）、29日（水）のいずれか1日
- ・審査結果通知：2023年1月上旬（予定）
- ・研究開始：2023年2月（予定）

※面接審査は書類審査を通過された方のみ対象

応募される場合は、

7月31日までにJSTへ事前連絡をお願いします！

先端国際共同研究推進事業

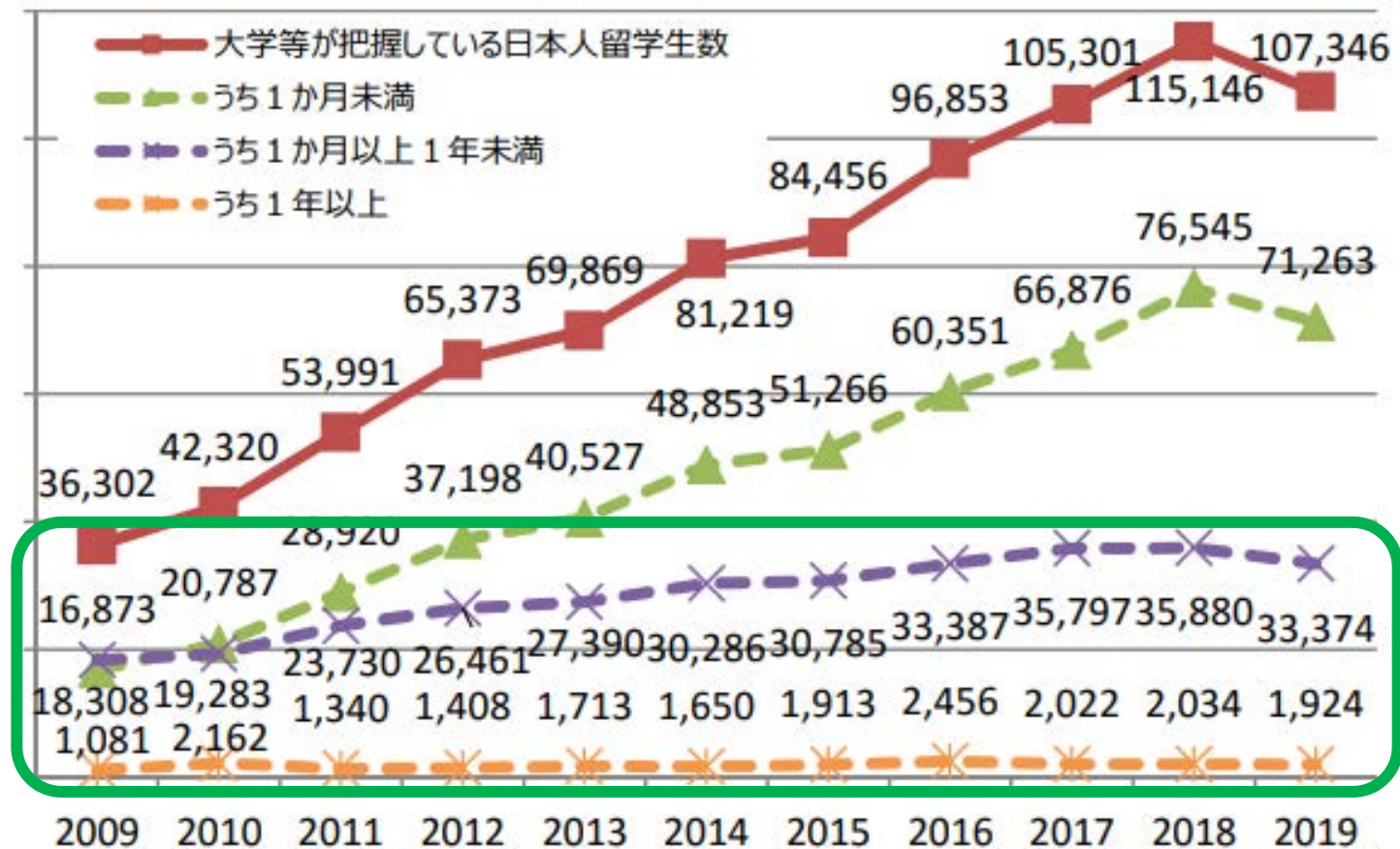
次世代のためのASPIRE

ASPIREで募集する次世代の研究者とは

今後、国際的な研究実績を積み、**将来**日本のトップ研究者となって国際的な研究コミュニティでの活躍が**期待**される研究者向けに支援を行います

- 科学技術先進国での**学位取得**や国際的な研究機関の**ポストに就く**などして得た知識、技術、ネットワーク等をもって我が国の科学技術の発展に寄与する、国際**頭脳循環の促進**を重視
- 後進の**研究者の育成**や、国際的な**研究コミュニティへの持続的な参画および連携の土台作り**に資する**国際共同研究**

日本から海外への留学



Source: 文部科学省資料より

ネットワーキング=協力関係=豊かな学術キャリア

世界中の人とつながって 豊かな学術キャリアをつくろう

Attend and present at conferences
国際学会に出席して講演者や仲間と知り合おう

Keep in touch
仲間と定期的に連絡しあおう
(卒業・昇進・転職など)

Develop an online presence
LinkedIn、ResearchGate、Google Scholar、
Twitter、個人のブログなどを更新し、自分の
オンラインプレゼンスを向上させよう

研究は協力関係の基盤の上に 構築される

自分の研究テーマに 新たな視点や気づきを得よう

Go on an exchange
在学中に留学しよう

Send your students on an exchange
優秀な学生を留学させよう

Invite international colleagues
国際的な人材を招聘しよう

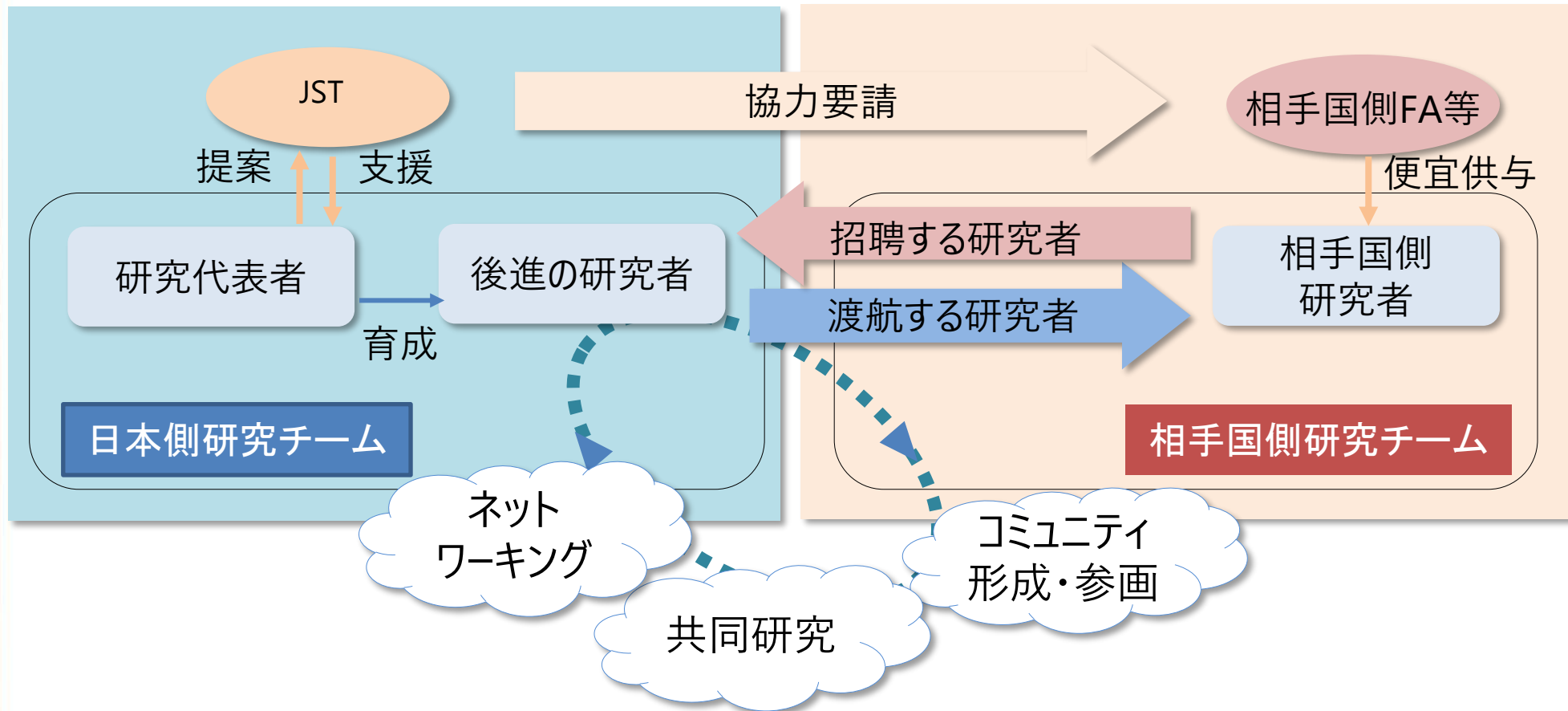
Reach out to authors
興味を持ったら論文があったら遠慮せず連絡
しよう

自分のアイデアを議論することで 裏付けが明確に

Source: Global Academy Jobs

<https://globalacademyjobs.com/how-to-build-and-grow-and-international-research-network/>

次世代のためのASPIREでできること



ASPIRE先行プログラム

2022年度 SICORP（支援中の日米共同研究課題）への予算の追加配賦により実施

趣旨：日本の科学技術の発展を目ざすため、若手研究者の先進国への短期渡航を支援し、将来の長期留学やポスト獲得、国際共同研究の実施など、国際的な研究活動への一歩を踏み出すきっかけを促進

支援方法・支援規模：メンターとなる研究者および渡航する研究者を含む研究グループを、研究課題単位で支援。支援中の課題への予算の追加配賦（200万～400万円/課題）により、計画書の変更に伴う変更契約のみで迅速に実施。渡航期間は数週間から3ヶ月程度。

2023年度 新たな国際頭脳循環モード促進プログラム（ReNewMAP）

約1年間の渡航を伴う国際共同研究（現在支援中）

2023年度 世界のトップ研究者ネットワーク参画のための国際研究協力プログラム（AdCORP）

約5年の渡航を伴う国際共同研究（現在支援中）

渡航体験記紹介 米国20～100日間

◆ 様々な時空間データに向けて、新しいデータサイエンス・人工知能手法の研究

Kさん（助教） → ジョージア工科大学

◆ 機械学習とプライバシー保護技術の両立

Tさん（博士後期課程） & Fさん（博士後期課程）

→ エモリー大学

◆ 数理モデルを使用した感染症疫学研究

Aさん（博士後期課程） & Hさん（専門職学位課程（MPHコース）） → ジョージア州立大学

◆ 災害からの復興や防災の取り組み

Mさん（論文博士取得予定） → テキサスM&A大学

◆ 教育アセスメント、教育改善策立案

Rさん（修士課程） → コネチカット大学

1. 海外の研究機関に渡航をしようと思った理由、きっかけは何ですか。
2. 海外の研究機関に渡航するに当たり、ハードルに感じていたことは何ですか。そしてそれをどのように乗り越えましたか。
3. 実際に渡航をしてみて、良かったと思うこと、たいへんだったと思うことは何ですか。
4. 海外への渡航の経験をどのような場面で活かせていますか（公私とも）。
5. 渡航した際に構築したネットワークを活用していますか。
6. 海外の研究機関への渡航を希望している後輩へのメッセージはありますか。
7. その他伝えたい事、思うことがあれば自由に記述してください。

きっかけは今の研究の発展のため

1. 海外の研究機関に渡航をしようと思った理由、きっかけは何ですか

- 人工知能・データサイエンスといった最先端の情報学分野には、米国は世界をリードし続けており、ジョージア工科大学のZHANG Chao先生は、時空間データマイニング分野において影響力が大きい研究成果が数多く挙げているため
- コンピュータサイエンスは国際的かつオープンに研究されることで、急速に発展しているため、コンピュータサイエンスの科学技術発展に貢献する人材として、国際的な協力は不可欠であり、海外での研究機関での経験は必須であると考えたため
- 現在の所属先で他国からの研究者や海外の大学院で研究活動を経験したことのある研究者たちとのディスカッションを経るうちに、自分も海外でより幅広い視野を持って専門性を高めたいと考えたため
- 現地に滞在しながら調査・研究ができるという、自由度が高く、チャレンジングなプログラムにやりがいを感じたため
- 海外の研究機関での研究は、異なる文化や環境に触れることで新たな発見やアイデアを生み出せると思ったため

みんなつまづいている！

2. 海外の研究機関に渡航するに当たり、ハードルに感じていたことは何ですか。そしてそれをどのように乗り越えましたか。

- 手元にある研究テーマと、これから海外の研究機関と一緒にやろうとする研究テーマの両立は難しい。双方の研究室の関係者にも参画してもらい、**チームで一緒に遂行**するようにした。
- **英語のスピーキング・リスニング能力はハードルに感じていたため、簡単な英語で自分の意見・考えを曖昧さがないようにしっかりと伝えられるよう準備した。**
- **英語でのコミュニケーションに不安があり、実際にうまくいかないことも少なくなかったが、経験を次に活かす姿勢を崩さないことで日々わずかでも進歩していることを実感することができた。**
- 所属の研究室では英語を用いたセミナーなどが行われているが、現地で話される英語をリスニングし、返答する力は十分ではなかったため、**英語能力の不足**で自分の意図していることが伝わらないことが予想された。研究活動においてはパワーポイントなどで**図示する**などして**コミュニケーション方法を工夫した。**
- 初めて行く調査地で、どこへ行って誰に会えばいいのか、**限られた時間の中でその都市や復興状況を理解し、目的を達成できるのか不安があったが、共同研究者らからの助言・サポートをもとに乗り越えることができた。**
- 異文化や言語の違いによる**コミュニケーションの困難さと新しい研究環境への適応がハードル**でしたが、**積極的に現地の研究者との交流**することで研究環境や文化の理解を深めることができた。

たいへんだったことと良かったことは背中合せ

3. 実際に渡航をしてみて、良かったと思うこと、たいへんだったと思うことは何ですか。

- コンピューター科学分野のtop 10の大学であるジョージア工科大学を身近で体験し、非常によかった。逆に、生活面にアメリカは色々不便なところがあり、大変だった。
- 準備をしっかりとすれば、海外の研究者との議論ができることの自信が身についた。海外での研究が選択肢として増えたのは、実際に渡航しなければ得られなかったことだと思います。またアメリカの物価はかなり高く、また食生活・文化も全く違うため、その生活に慣れつつ、研究を進めることは大変だった。
- “海外”に対するハードルが下がったことが良かった。英語でのコミュニケーション、特に研究に関するディスカッションで正確に自分の意図を伝えることがたいへんだった。
- 海外での研究遂行がいかに難しいか肌で感じられた。研究関連と日常生活両方における英語での意思疎通はたいへんだった。
- 米国の潮流や考え方について第一線で活躍する実践者との会話を通じて学ぶという貴重な経験ができて良かったが、米国の歴史や当該都市に関する知識が不足していたため理解が大変だった。
- 多くの刺激的な環境で新しい研究アイデアを得られた。コミュニケーションがたいへんだった。

違いを受け入れ視野を広げよう

4. 海外への渡航の経験をどのような場面で活かしていますか（公私とも）。

- 今回は人生初めて渡航を経験したが、今後またこのような機会があったら、余裕で対応できると思う。
- アメリカの自由の文化は刺激を受けた。失敗も経験と思い自己責任で何でもチャレンジしてみる、周りの人々にその理解があるというのは日本とは全然違うように感じた。こういった考え方に触れたのは自身の未来の視野を広げることになった。
- I had a discussion with some of his students about the project I am currently in and the project they are working on, and got some inputs and suggestions from them.
- 研究に関して視野が広がった。また、日常生活で英語を使用することへのハードルが下がった。さらに、留学生等を受入れる際の準備やサポートに自身の経験を活かしている。
- 研究に関しては、より危機感を持って研究に取り組むようになった。私生活では留学生とプライベートでも交流する機会が増えた。渡航先では研究室の博士課程学生や先生が観光地に連れて行ってくれたので、それを還元したい気持ちも芽生えた。
- 渡航によって得られた知見をもとに、研究分野に関する発表や論文執筆の機会を得るなど研究活動の幅を広げることができ、また今後の研究計画を考える上でも現地での調査から得られた経験が活かされている。
- コミュニケーション能力が向上し、国際的な友人や知人を得ることができました。

活かせています、ネットワーク

5. 渡航した際に構築したネットワークを活用していますか。

- アトランタにあるジョージア工科大学とエモリー大学では、データマイニング分野の有名な先生が多く、これから構築したネットワークでたくさんの共同研究を展開しようと思う。
- 受け入れ研究者のLi Xiong先生と、**継続して研究を進めています。**
- 渡航先の研究機関内外でのネットワークを構築したが、現状活用には至っていない。渡航先の研究機関に限らず、積極的な活用を検討したい。
- 知り合った博士課程の学生とは**帰国後もメールでやり取りしている。気軽に研究に関連する質問ができる関係性が築けたので**今後も関係性を活かしていきたい。
- 帰国後、**現地での調査内容をまとめた論文では、現地で実施したインタビュー対象者に内容の確認や意見をもらうなど、渡航を通じて得られた新しいネットワークを活用してアウトプットの質を高めることができた。**
- 帰国した後も、**国際会議や研究交流会などで再会することがあり、情報交換を行っている。渡航先の教授先生の紹介を通じて、新たな研究者との共同研究ができています。**

行った人はみんな勧める

6. 海外の研究機関への渡航を希望している後輩へのメッセージはありますか。

- 情報学を研究している皆様、**ぜひアメリカのトップ大学に渡航して、世界一の情報学の研究を体感**してみてください。
- 研究者として成長できるだけでなく、**人として成長できる機会**だと思います。**英語をしっかりと準備**して、研究だけでなく、**色々なことに挑戦**してみてください
- **Do not be afraid of facing the challenge in a new place!** You will have a different experience compared to what you are experiencing here usually, but that will be a good opportunity and memory that you can enjoy in the future!
- 戸惑いや不安な気持ちがあるかもしれませんが、**渡航機会があるならば積極的に活用**しましょう。また、その機会を逃さず活用できるように、**日ごろから準備をすすめることが大切**だと思います。
- 研究能力的にも英語能力的にも自分が留学させてもらうべきか**悩んでいましたが、チャンスがあるなら行くべき**だと思います。実際に海外の研究室に行かなければ気づけないことは本当に多いです。
- 渡航をした際には、**その土地を自分の足で歩くこと**で、現地の人々の目線に立ってものを見ることができたり、思わぬ発見や出会い、経験ができたりするのでぜひ試してほしい。
- 海外の研究機関への渡航はとても貴重な経験です。最初は戸惑うかもしれませんが、新たな環境や人々との出会いが、**研究や人生に大きな影響を与えるので、ぜひ、チャレンジ**してみてください。

渡航経験は研究者として必須

7. その他伝えたい事、思うことがあれば自由に記述してください。

- 研究者として人として、成長でき、何より楽しめた。
- I can get another precious university to experience in a different country which is very different in habits of people and culture from Japan.
- 海外渡航を希望する場合、費用がハードルだと感じている。日本円で支給される場合は為替の影響を強く受けるため、状況によってはかなりの節約を強いられる可能性がある。このような場合、柔軟に対応できる仕組みがあると渡航希望者の不安が軽減されるのではないか。
- 渡航先のアトランタはキング牧師の故郷であり、人種的な背景やHIV研究の歴史、またCDCの存在などが研究背景として存在していることがわかった。このような地域や国によって異なる公衆衛生学の発展を現地で学ぶことは、日本の公衆衛生学の発展に活かすことができるのだと実感できた。
- 現地へ行かなくてもインターネット等で情報を収集できる現代においても、実際に足を運び、その土地の空気を吸い、歩き、人々と言葉を交わし、思考を巡らすことから得られるものはなにもものにも代え難いと思う。
- 海外の研究機関への渡航は、世界的な問題に取り組むためのグローバルな研究活動の推進にもつながる。研究者としてのキャリアを高める上で、必要不可欠な経験であると言える。

日米研究連携促進週間

Japan-US Research Collaboration Week (JURC)

日程: 2023年7月20日（木）、21日（金）、22日（土）、24日（月）、25日（火）

会場: スタンフォード大学（Munzer Auditorium、7/22のみLi Ka Shing Center for Learning）

言語: 英語

開催形式: 対面のみ

参加登録（入場無料）: お申し込みはこちらから



<https://form2.jst.go.jp/survey?a=8054e301651075bbdd4b92d49f1f4d4c20f1e8c7&lang=en#page/1>

概要: 日米間の研究を通じた連携を促進するために、日米研究連携促進週間（JURC）を開催します。日米の科学技術分野における研究協力は、信頼関係で結ばれた研究者のネットワークづくりを促進します。多様で優秀な研究者のネットワークを構築することは、グローバルな課題に直面する今日の危機においてイノベーションを促し、次世代人材の育成や太平洋地域の平和と安定にもつながることが期待されます。日米の研究者が社会実装や産業化も視野に入れた共同研究をハイスピードで立ち上げ、連携を進められるしくみ（リサーチハイウェイ）作りを企図し、これまでに成功している又は成功に向けて努力中の共同研究の事例を集めます。共同研究の事例に新しいステークホルダーの参画を募るとともに、その事例から学び、リサーチハイウェイを作るための洞察を得る機会となることを期待しています。



ご清聴ありがとうございます

Google

JST ASPIRE

すべて ショッピング 画像 ニュース

約 760,000 件 (0.57 秒)

国立研究開発法人 科学技術振興機構
https://www.jst.go.jp/inter/aspire

先端国際共同研究推進事業(ASPIRE)

先端国際共同研究推進事業(ASPIRE) ... 我が国の研究コミュニティ
することを旨とする。JSTトップ> 先端国際共同 ...

https://www.jst.go.jp/program/announce_aspire2023

2023年度 先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE) 研究提案の ...

1 日前 — JSTは、我が国の科学技術力の維持・向上を図るため、優秀な若手研究者等の科学技
術先進国への渡航や海外からの若手研究者の招聘、トップレベルの国際共同 ...

JST ASPIRE

で検索 
またはQRコードから



https://www.jst.go.jp/inter/aspire/program/announce/announce_aspire2023.html

応募締切 8月17日 (木) 正午

Top研究者/TopチームのためのASPIRE: aspire@jst.go.jp

次世代のためのASPIRE: aspirers@jst.go.jp